

遷延性意識障害患者の皮膚洗浄における 綿タオルと固形石鹼利用の効果

¹広南病院 東北療護センター 看護部、²広南病院 脳神経外科

○三浦 環¹、菅原 利枝¹、鈴木 宏美¹、佐藤 登志枝¹、川熊 のぶい¹、齋藤 薫¹、長嶺 義秀²、
中里 信和²、藤原 悟²

【はじめに】 一般に乾燥肌とはさまざまな要因によって皮膚の水分が低下した状態をいい、湿度50%以下の環境では皮膚は乾燥傾向になるといわれている。当センターは自動車事故による遷延性意識障害患者の専門治療施設であるが、一年を通して室温26度・湿度60%の環境を維持している。それでも乾燥肌の患者が多く見受けられるため、日常行っているナイロンタオル<NT>とボディソープ<BS>による洗い方に問題があるのではないかと考え、皮膚刺激が少ない綿タオルCTと皮膚の自然回復力を妨げない固形石鹼<SS>の併用を試み、皮膚水分量を測定し比較検討したので報告する。

【対象及び方法】 対象は入院中の患者28名(男性21名、女性7名、年齢17~84歳、平均49歳)である。方法は対象者を無作為に6名ずつ4通りの洗い方に分け検討した：(1)NTとBS、(2)CTとBS、(3)NTとSS、(4)CTとSS。測定は入浴後にモイスチャーチェッカー[®]を用いて下肢の水分量を測定した。

【結果】 4通りの洗い方のうち(4)CTとSSで皮膚水分量が最も保持されていた。

【考察】 NTはきめが粗く硬いため汚れを落とすとともに皮膚表面を損傷しアレルギーや細菌などの侵入を容易することに加え、BSが強い脱脂力と洗浄力によって保湿に必要な皮脂膜まで洗い流すため皮膚の乾燥をまねきやすいと考えられる。CTはきめが細かく柔らかいため皮膚損傷が少なく、SSが余分な角質だけを取り除き新しい細胞が生まれやすい環境を作るため皮膚水分量が上昇すると考えられた。

【結論】 綿タオルと固形石鹼を使用した皮膚洗浄は乾燥肌になりにくい洗浄方法と考えられた。